

教養教育について

浅野幸治

ここでは、大学での教養教育について私見をごく手短かに述べます。学生諸君は、大学の教養教育においてどのようなことを学ぶのか、および何のために学ぶのかということを理解するための参考にして下さい。

教養とは、教育のある人が知っているべきような事柄です。したがって大学の教養教育が念頭におく教養とは、大卒の人が知っているべきような事柄のことです。大学教育は専門教育とそれ以外の教育に分かれますが、大雑把に言うと、専門教育以外の教育がすべて教養教育であると言えます。

具体的に言うと、教養の中には、日本語、英語、数学、コンピュータなどの言語能力、および歴史、地理・社会、自然についての事実的（経験的）知識が含まれますが、とりわけ大事なのが政治的・倫理的な判断力です。

政治的・倫理的な判断力があるとは、人間として如何に生きるべきかが解るということです。このとき重要となるのが、生きるための指針となる価値をよく理解することです。この価値は、具体的には、自由と民主主義です。個人の自由を尊重し、社会を民主的に運営していくこと、これが人間として良く生きるために不可欠です。このことは、自由と民主主義の反対を考えてみればよく解るでしょう。個人の自由が抑圧され社会が非民主的に運営されるような所では、人間が自ら幸福と考える生き方を実現することは期待できないでしょう。そして自分の幸福を追求するのでなければ、人間は自分の人生を生きているとは言えません。

このような人間としての生き方に関わろうとする学問として、文学、哲学、法学、政治学、経済学があります。これらの科目を勉強する際には、学生諸君には是非とも自由と民主主義が人間にとって持つ意味をよく学んで欲しいと思います。

すべての人が幸福を追求する権利をもちます。すべての人がこの権利をもつので

すから、当然自分の権利だけでなく他人の権利をも尊重することが必要です。これが人権の尊重ということです。ここで重要となるのが人間愛です。結局の所、人の権利を尊重することができるのは、人に対するいとおしさや慈しみや同情といった感情があつてのことだからです。このような人間に対する愛は、他人を知ることを通して育ってきます。

現代日本の社会制度は、人類が何千年もかけて歴史的経験を通して学んできたものです。今私達は、自由と民主主義の意味を理解するために、過去の経験——戦争、内戦、革命、飢餓など——を繰り返す必要はありません。私達は先人の経験から学ぶことができるからです。それが歴史を勉強する意義の1つです。しかし、歴史の勉強にはそれ以上の意義もあります。歴史を勉強するとは、他人が如何に生きてきたか、他人の——あるいは立派な、あるいは愚かな、あるいは滑稽な——生き様を学ぶことです。また現代の地理・社会の勉強も、主として自分以外の人達について、その生き様を学ぶことです。私達は他人を知ることを通して自分を知り、自分を知らずして他人を知ります。それは結局の所、私達がみな同じ人間だからです。このようにして人間に対する理解を深めることが、自ずから人間愛につながっていきます。